

町村協会だより ④6

(後志支庁管内古平町)

研修旅行を日帰りに変え参加者を増やす

第四十六回目として紹介する

協会は、積丹半島の東側中央部に位置し、エビ、タコ、ホッケ、カレイ等の漁獲が多く、特に明太子を除くタラコの製造量が二千トンと全国の出荷量の十%を占める漁業の町の、古平町身体障害者福祉協会(高橋邦子会長)です。

同協会は昭和二十八年四月に、初代会長の田岸倉浩氏を中心とした有志の多大なる尽力のもとに設立されました。

現役員及び執行体制は、高橋会長をトップに副会長二名、書記二名、会計二名、監査二名の九名で、そのほか連絡網として町内ごとに班長を置き、会員八十三名、準会員六名の合計八十

九名となっています。

主な年間行事及び活動内容

- ▼四月…定期総会
 - ▼五月…後志地区身体障害者福祉協会総会出席
 - ▼七月…後志地区身体障害者パークゴルフ大会参加
 - ▼九月…後志地区身体障害者福祉大会及びスポーツ大会参加
 - ▼九月…日帰り研修旅行
 - ▼十月…北後志ブロック研修会参加
 - ▼一月…新年会
 - ▼他に役員会二回、三役会三、四回
- 古平町身体障害者福祉協会PR**
- 同協会は、古平町や社協からの助成金を受けていますが、独立した団体として活動を行っています。後志支庁地区協会や北

後志ブロックの行事には積極的に参加しており、特にパークゴルフは熱心に参加しています。数年前まで一泊で実施していた研修旅行は、会員の高齢化に伴い一人でも多くの方が参加しやすいようにと日帰りに変更しました。温泉に入り食事も出来



新年会の様子

る研修先(昨年はニセコ町)を選び、有意義な一日を楽しんでいます。現在の課題は、一人でも多くの会員を増やすことで、町広報誌に「会員募集のお知らせ」を載せてもらう等加入促進を図っています。



同上